雷の音が聞こえる。

おっさん41

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雷の音が聞こえる。

【コード】

N5605M

【作者名】

おっさん41

【あらすじ】

外で雷が鳴っていたので、タイトルは昔友人が言った、言い間違
いから。

豪雨の中、雷が鳴っている。

教室の中で一部の女子が悲鳴をあげ怖がる。ぜんぜん平気だと自慢している男子もいる。

雷以上に教室の中のほうが姦しい。いったい何をそんなに騒いでいるのか。

騒然とした教室の中、一人冷めている。

窓から外の景色を眺めながら、ふと物思いにふける。

‘雷もしゃべれば良いのにな’

雷ばかりがこつも怖がられたり、非難されたり、というのはいささかかわいそうだ。

雷が声を出せたらどうなるだろう？

みんなから避けられて悲しむのか、あるいは自分の恐ろしさを声高に主張して得意になるのか。

そんなどうでもいいような思考にどっぷりと浸かる。

帰り道。

雷の音はだいぶ遠くなり、生徒たちもいくらか平常を取り戻していた。

遠くで雷が鳴る。誰も気にとめていない。

しかし僕は違った。

雷の音と同時に、何か言葉が聞こえた気がした。

無論周りの人間の声じゃない。人の物でない、恐ろしげな声。

‘これって雷の声じゃないか？’

そう思ったらいても立つてもいられない。僕は雷雲があるほうへと走った。

雷雲はなぜか動かなかった。何時間か走って、ようやく追いつく。

雷雲が不気味に光る。それを真下から眺める。

次の瞬間、目の前が光に覆われた。

その輝きに包まれながら、僕は何かの声を聞く。

それは声にもならないような声で、なんだかかとても……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5605m/>

雷の音が聞こえる。

2010年10月28日05時51分発行